

第6回 認知症フレンドリージャパンサミット 2019 in 京都



会場：京都橘大学 啓成館1階

前夜祭会場：同志社大学 寒梅館211号室



Supported by



THE NIPPON
FOUNDATION

後援

京都府、京都市

学校法人 京都橘学園

公益社団法人 認知症の人と家族の会

「第6回認知症フレンドリージャパンサミット2019 in 京都」 開催にあたって

これまで関東を中心に開催されていた認知症フレンドリージャパンサミットを初めて関西で開催することになりました。日本は小さな島国ですが、それでも地域ごとに特有の文化があり、その文化はその地域の人々の考え方や仕組みに特有の色付けをします。今回、そうした関西の色を少し加えながら、認知症の事を社会の様々なバックグラウンドを持った方々と自由に語る時間・場にしたいと思います。

サミットはワークショップや登壇者とのディスカッションを中心とした議論の場です。認知症と制度、ダンス、落語、お寺、仕事、災害、触法、学びあい、AI、ペット、お出かけ、などなど。ただ聞くだけでもよし、たくさんのお話を話したい、語りたいたいでもよし、多くの出会いと思わぬ発見があること間違いなしです。

Thinking Outside the Box

『日頃の自分の枠を少しはみ出して語る・考える！』

小川 敬之





認知症フレンドリージャパンイニシアティブ

DFJI

認知症フレンドリージャパン・イニシアティブ(DFJI)は、2013年11月6日に発足しました。認知症をとりまく課題を、医療や介護の枠組みの中だけで考えるのではなく、社会のデザインの問題と捉え、私たちの暮らし方を規定している企業・自治体・NPOなど様々なセクターから人が集まり、知恵を出し、実験をしながら、より良い未来を作っていくことを目的にしたネットワークです。

認知症を自分とは切り離れた“ヤッカイゴト”と捉えると、「認知症になったらおしまい」「誰が負担するのか?」「薬はいつできるのか?」という議論になり、そこに答えは見つかりません。しかし、自分も認知症になるかもしれないという“ジブンゴト”として捉えれば、誰かが解決してくれるのを待つのではなく、認知症の人も含め、誰もが暮らしやすい社会を作るための知恵をみんなが出し合えるようになるはずです。

認知症フレンドリーとは、単に認知症の人にやさしい人が多いということではなく、認知症の人が必要以上に自分の障害を感じずに、“普通の暮らしができる”ような機能がビルトインされているという意味です。

DFJIは、認知症の課題を起点として、様々な人々はプロジェクトを作り、情報やリソースを交換し、実験を繰り返しながら、私たちの未来を創り上げていきます。

“認知症フレンドリーな社会をつくる” 【DFJIマンスリーサポーター趣旨書】

世界でもっとも早く超高齢社会となった日本は、認知症をめぐる様々な社会的な課題に対し暗中模索の状態にあります。さまざまな人の懸命の努力も誰もが認知症の当事者となる今後の状況に対して十分ではありません。特定の組織や機関だけでは手に負えないのです。

DFJI(認知症フレンドリージャパン・イニシアティブ)は、2013年の発足からこれまで、従来の枠組みを越え、様々な職種・立場・セクターの人が関わる価値を訴えてきました。そして、分野の垣根を超えたコラボレーションにより多くの成果を上げています。

その中には、認知症の本人や家族、周囲の人たちのインタビューから制作した「旅のことば 認知症とともによりよく生きるためのヒント」があり、川崎市とともに全国でも例をみない認知症ケアパス「認知症アクションガイドブック」も作成しました。年に一度の認知症フレンドリージャパン・サミットには毎年延べ200名近くの方が参加、十数件を越える先進的な取組みが紹介され、そこで生まれた対話から次の新しい取組みが生み出されています。セクターを越えたコラボレーションの総時間は2,000時間を越えるでしょう。リソースを持ち寄りながら行う活動として想定以上のインパクトを生み出してきたと自負しています。

その一方で、現在の体制のまま活動を拡大するのに限界を感じています。特に責任をもってプロジェクトの運営に取り組むメンバーの稼働時間と、活動を世間に広めるための広報資金が足りません。これを補い、認知症フレンドリーな社会を作る活動を前進させるため、2017年9月より支援制度「マンスリーサポーター」を開始しました。

DFJIの事務局あるいは各プロジェクトのメンバーとして些少のご支援と稼働時間のお約束をいただく、あるいは、毎月一定額のご支援のみをいただくものの2種類に別れます。ぜひともマンスリーサポーターにご入会いただき、DFJIの活動を一緒に作っていくことにご協力ください。

※DFJIマンスリーサポーターは個人向けです。企業としてのサポートは別途ご相談ください。

マンスリーサポーター種別	
マンスリーサポーターACT スタッフ/プロジェクトメンバー/サポートメンバーとして 毎月一定時間のご支援をお願いします	月額 250 円
マンスリーサポーター1000~10000 毎月一定額の資金をご支援いただきます	月額 1,000~10,000 円

入会お申し込み方法	
お申込みはスマートフォンまたはパソコンから https://pne.club/dfji ※公式サイトからもたどることができます。 ※カード集金に株式会社手嶋屋提供の「ピーネクラブ」を利用しています	



- ・京都市営地下鉄東西線「栂辻駅」下車/東へ徒歩15分
- ・京阪バス 山科駅～京都橘大学 直通16分/26A系統18分

※駐車スペースには限りがございますので、可能な限り公共交通機関を利用しご来場くださいませ。

会場案内

会場の住所

〒607-8175 京都府京都市山科区大宅山田34

売店・食堂の営業時間

8月31日（土） 売店：11：15～13：30

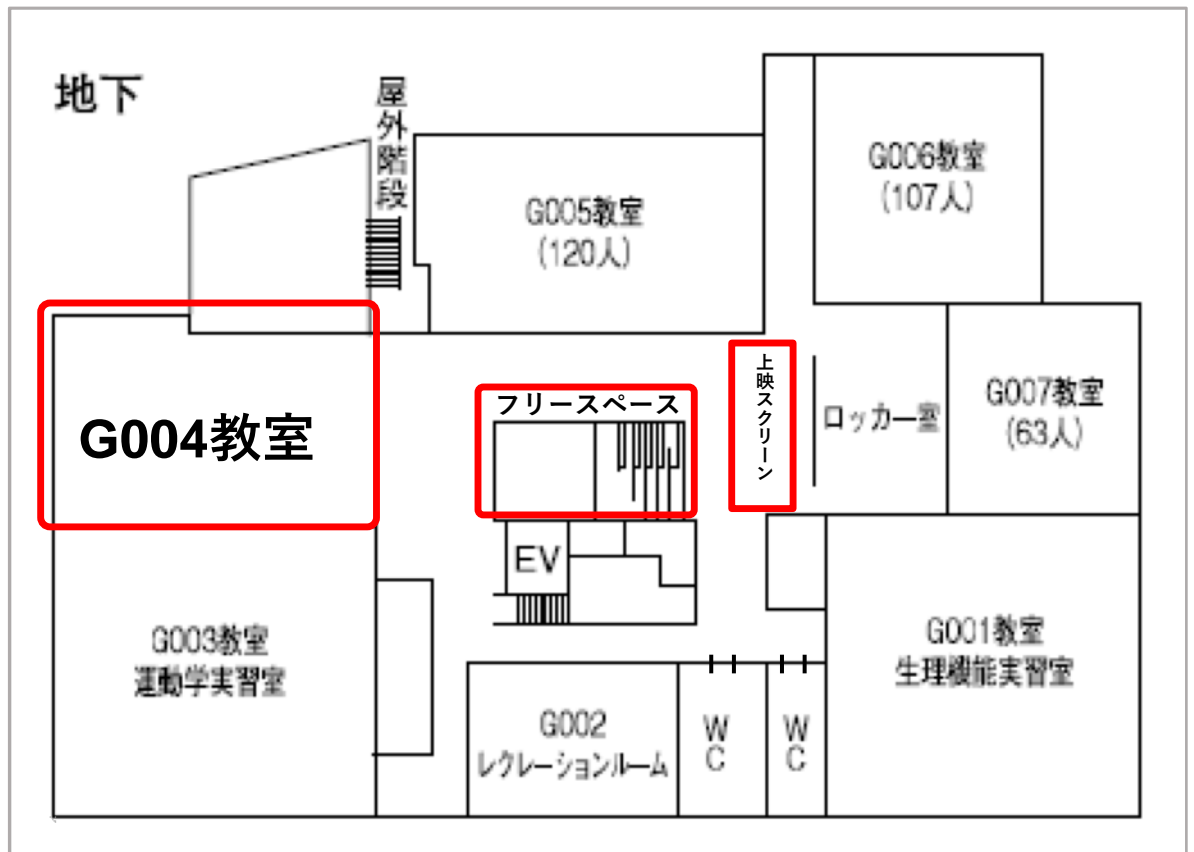
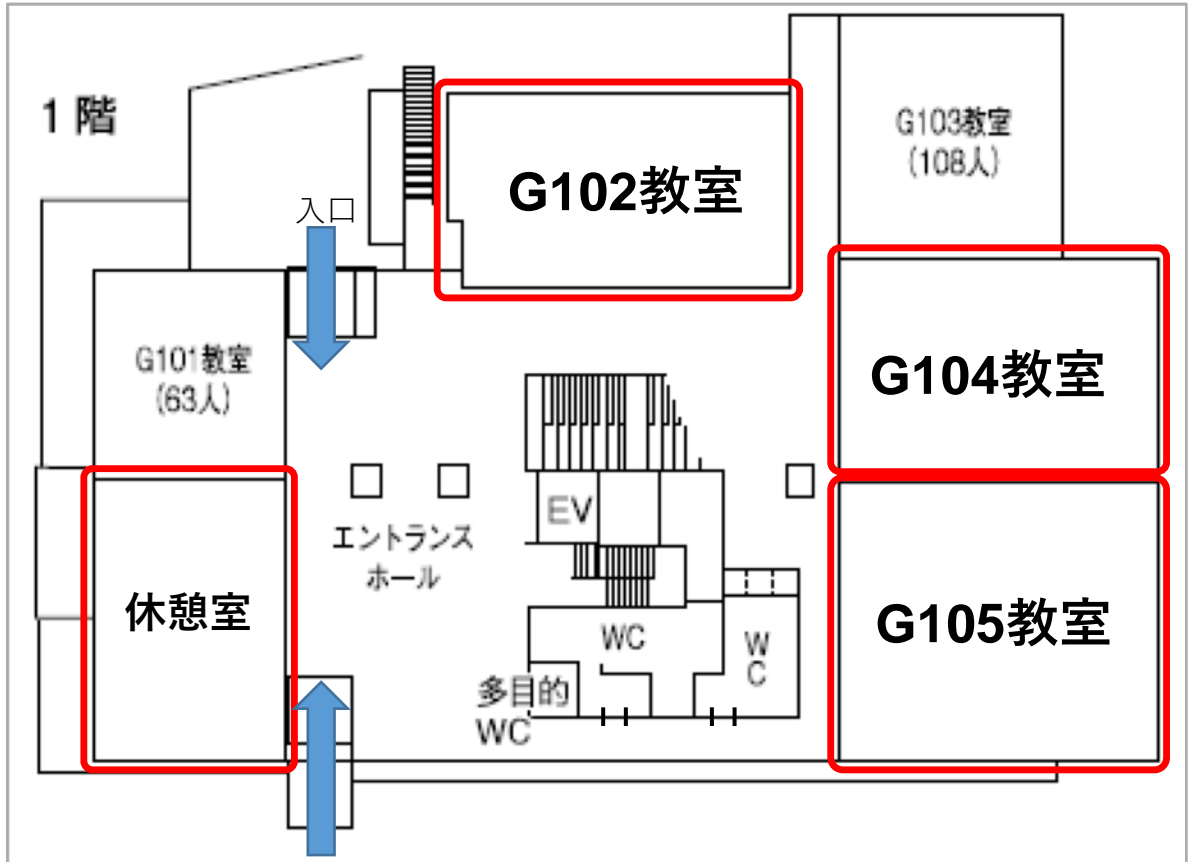
食堂：11：00～13：30

9月 1日（日） 終日閉店（昼食は各自でご持参ください）

注意事項

- ・ゴミは各自でお持ち帰り下さい。ご協力をお願いいたします。
（※本学ゴミ箱は使用できません）
- ・DFJIサミット開催中はスタッフが会場の様子を撮影します。撮影した画像や動画は後日、SNS等に掲載する予定です。撮影や掲載をお断りされる方は、あらかじめ受付でご相談ください。

会場案内図



1日目 8月31日（土曜日）

スケジュール

時間	教室No.	セッション名
9:30~10:00	G102	オープニング・セッション
10:00~11:30	G104	行政から考える認知症施策 認知症条例を通して
	G102	「大学のまち京都」で多世代共生社会を考える ～京都Xキャンプとソリデールの事例から～
11:50~12:50	G102	ランチオン・セッション ～離れていても打ち合わせ！「Zoomカフェ」体験～
13:00~14:30	G004 & 地下ホール	認知症とつながる力 ～ダンスコミュニケーション～
	G104	落語で地域支援
	G105	図書館+地域資源=地域づくり ～図書館でつながる！つなげる！よりよく生きる！～
15:00~16:30	G104	現代社会の駆け込み寺を目指して ～超少子高齢化社会における寺院・僧侶の役目～
	G102	演劇で考える、これからの共生社会
17:00~18:30	G104	ケアとテクノロジー・「心のケア」を具体化する ～認知症グループホームの葛藤が教えてくれること～
18:30~19:30	G102	ネットワーク・セッション

2日目 9月1日（日曜日）

スケジュール

時間	教室No.	セッション名
9:20~10:50	G004	認知症とはたらくということ ～妄想と現実を解き明かす～
	G102	高齢者とペット
	G104	触法って何？ ～病気なのに、病気だから犯罪になってしまうとき～
11:10~12:40	G105	ケアの本質とテクノロジー
	G004	Michiyo & オイワ ～本人の言葉から考え続けるということ～
	G104	アクションガイドブックの作り方 ～自分たちで、自分たちのためのケアパスをつくる一歩のために～
12:40~13:30	G102	ランチオン・セッション ～離れていても打ち合わせ！「Zoomカフェ」体験～
13:30~15:00	G102	自然災害をともに考える
	G004	AIと認知症の人と介護
	G104	まなびあいツールのご紹介
15:20~16:50	G105	認知症×サーフィン ～学ぶ/働く/遊ぶ。本気で遊ぶ体験と思いを大切にしているイベントの作り方～
	G102	外出をあきらめない、あんしんして出かけられる場所づくり
17:00~17:30	G102	クロージング・セッション

Dementia Friendly Japan Summit 2019

1 日目-G104 教室 (10:00~11:30)

【行政から考える認知症施策 認知症条例を通して】

<内容>

認知症になっても住み慣れた地域で、今まで通り暮らせることを目指し、認知症条例を制定する自治体が増えてきました。

認知症の人も含め誰もが生き生きと活躍でき、希望を持って自分らしく暮らせるまちの実現を目指し制定された、御坊市の「御坊市認知症の人とともに築く総活躍のまち条例」、

認知症の早期受診を推進するための診断助成制度や、認知症の方が外出先などで事故に遭われた場合に救済する事故救済制度の創設を内容とする全国に先駆けた神戸発のモデルなどを紹介していきます。

また、ゲストから行政の立場からの認知症に対する支援のお話も頂きます。

<登壇者>

谷口 泰之

牛尾 容子



御坊市役所 介護福祉課地域支援係
係長 認知症地域支援推進員
「御坊市認知症のひととともに築く総活躍のまち条例」制定に関わる。



東広島市議会議員
作業療法士
認知症介護指導者
2019年4月の市議選に挑戦し初当選。
認知症になっても暮らしやすい東広島市実現を目指す。



【「大学のまち京都」で多世代共生社会を考える ～京都Xキャンプと京都ソリデールの事例から～】

<内容>

京都府は人口あたりの大学生数が全国TOP（2位は東京）で、全国平均の約3.7倍という「若者に恵まれた地域」となります。

本セッションでは、そんな「京都ならではの」若者人材環境を活かした事例を紹介しながら、超高齢社会に向かう日本において、未来人材である大学生が、積極的に地域や行政に関する活動の意味や意義を、10年・50年・100年先の地域社会をイメージしながら、各々の世代にとって暮らしやすい環境・仕組みとは何かについて考えてみたいと思います。

また、事業事例をもとに、今後の認知症フレンドリーな社会の実現において、学生たちとの連携による期待・希望とは何か？などをトークセッションで深めていきます。

<登壇者>



小川敬之
京都橘大学

作業療法士（経験34年）、京都橘大学健康科学部作業療法学科教授
認知症治療病棟、重度認知症デイケア、特養などの臨床経験を経て九州保健福祉大学へ。昨年4月から現大学に移動。地域共生社会に向けた実践研究、就労に力を注いでいます。



片木孝治
総務省地域力創造
アドバイザー

(株)応用芸術研究所代表取締役所長
様々な大学から集まる大学生たちと長期滞在型プロジェクト活動「京都Xキャンプ」を通して、地域社会課題や環境問題などに取り組む。京都精華大学デザイン学部建築学科特任准教授(2007-2012)を歴任。



椋平芳智
京都府庁

京都府建設交通部住宅課 主幹
1991年横浜国立大学工学部建設学科卒業。次世代下宿「京都ソリデール」事業を推進している。これまで、福祉のまちづくりや、サービス付き高齢者向け住宅、住宅セーフティネット等に携わる。



京都Xキャンプ：大学生が地方で長期キャンプし、地域の高齢者と地域課題等に取り組む



京都ソリデール：高齢者宅の空き室に、大学生が低家賃で同居・交流する住まい方

1 日目-G004 教室 & 地下ホール (13:00~14:30)

【認知症とつながる力 ~ダンスコミュニケーション~】

「いっしょに踊ろう」Let Me Stay and Dance with You は、認知症の人もそばにいる人も同じ音楽で踊れるダンスです。誰もが、その人らしさを表現できるダンスです。まちがえても大丈夫♪ 笑って、ダンスに挑戦♪

本セッションでは、誰もが音楽とダンスをつうじて、こころのふれあいを楽しむことが目的です。このダンスがきっかけとなって、沢山の人が笑顔で地域づくりにつながることが目的です。♪ぜひ、一緒に踊りましょう♪



オーガナイザー

田中克博

精華町キャラバンメイト連絡会



登壇者

三宅眞理

関西医科大学 衛生・公衆衛生学教室

佐瀬美恵子

桃山学院大学非常勤講師

後藤由美子

関西大学 非常勤講師

植田昌美

オレンジダイヤル

山本恵

株式会社ハートケア

高畠昌子

西宮市上甲子園1丁目自治会

- ①あなたと私 ゆっくりと踊ろう
手と手を取って ゆっくりと踊ろう
遠い宇宙も 青い海も
あなたと私 ゆっくりと踊ろう
- ②あなたと私 ゆっくりと歩こう
手と手を取って ゆっくりと歩こう
彼方の山も 続く砂漠も
あなたと私 ゆっくりと歩こう
- ③あなたと私 ゆっくりと踊ろう
心をあわせて ゆっくりと踊ろう
遙かな海も 遠くの空も
あなたと私 一緒に歩こう

Dementia Friendly Japan Summit 2019

1 日目-G104 教室 (13:00~14:30)

【落語で地域支援】

私たちは同志社大学、京都大学で落語研究会に所属し、活動の一環として、地域の福祉施設やイベントでの出張落語を行っています。高齢者の方々から子供たち、障害をもった方々まで多種多様なお客様の前で落語を披露してきた経験を通して、私たち学生にできる「地域支援」についてお話ししたいと思います。落語の実演も行いますのでどうぞ楽しみに！

<内容（変更の可能性があります）>

- ・落語研究会での出張落語の事例
- ・子どもたちへの落語教室活動
- ・落語の世界観のなかに見る地域交流
- ・落語実演

など

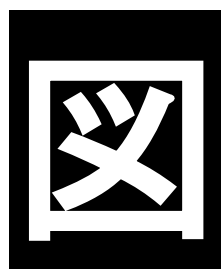
<登壇者>

同志社大学落語研究会、京都大学落語研究会に所属。

- ・後藤 希実（同志社大学 社会学部社会学科 4 回生）
- ・田中 健志郎（京都大学 経済学部 2 回生）



認知症にやさしい図書館プロジェクトからの視点で考える・・・



書館



域資源＝

『地域づくり』

～図書館でつながる！つなげる！よりよく生きる！～

<内容>

認知症の人やその家族、支援者をサポートとする地域拠点として、「認知症にやさしい図書館プロジェクト」の取り組みが各地で進められています。図書館の機能を活かした地域支援の実践は、新たな地域支援の価値をつくり出すと同時に、これまでの実践と連動することで、これからの新たな支え合いの仕組みを創りだし、地域の支え合いの基盤を充実・強化することが可能です。

このセッションでは、一つひとつの実践がつながり、連動する地域支援の実践をイメージしつつ、図書館を拠点とする多様な主体による“ごちゃまぜ”の地域支援について、話し合いたいと思います。フロアとの対話を通じて、図書館を起点とした「認知症にやさしい地域づくり」の実現に向けたヒントときっかけを、それぞれの参加者が得ることを目的とします。

<登壇者：ごちゃまぜ隊メンバー>



舟田 彰

川崎市宮前図書館

川崎市へ一般事務職として入庁。社会教育主事として公民館勤務を経て、現在、川崎市立宮前図書館勤務。日本図書館協会「健康情報委員会」委員。「認知症の人にやさしい小さな本棚」という常設コーナーを設置し、誰でもが安心して利用できる図書館を目指し、模索中。



成合進也

日向市社会福祉協議会

社会福祉士、認知症地域支援推進員
社協使命のもと、日向市社協ビジョン（「一人ひとりが主人公、一人ひとりがサポーター」）達成を目指して、「動けば変わる！」をモットーに、個別支援から地域支援を総合的に展開する社協活動実践に取り組んでいる。



井上 典子

京都市醍醐中央図書館

京都市醍醐中央図書館
図書係長
日本図書館協会認定司書
病院での回想法をきっかけに地域包括支援センター等と連携。「認知症にやさしい図書館はみんなにやさしい図書館」をモットーに活動中。



小川敬之

京都橘大学健康科学部作業療学科 教授
作業療法士
色々なことに興味をもって首を突っ込む男。京都在住1年と半年。福岡県出身

【現代社会の駆け込み寺を目指して ～超高齢化社会における寺院・僧侶の役目～】

<内容>

私たちは地域資源として寺院・僧侶の特徴を活かし、お寺における認知症支援、街頭での愚痴聞き活動、離島でのお寺を活用した町おこし等、様々な社会活動を試みてきました。そしてこのたび、宇治にお住まいの高齢者の方々の困りごとに応えるために、終活に関するセミナーや相談活動をスタートしました。人生 100 年時代の生き方は最先端の AI も教えてくれません。

かたや、仏教は 2500 年前から「生き方」を説いてきました。これからの時代の心豊かな生き方について、我々の実践事例をもとに皆さんと共に語り合いたいと思います。



<登壇者>



高橋一仁 (たかはしいちじん)
京都府京田辺市出身
浄土真宗本願寺派 正光寺 僧侶
NPO法人終活サポートセンター



加茂順成 (かもじゅんじょう)
山口県長門市出身
浄土真宗本願寺派 向岸寺 僧侶
NPO法人終活サポートセンター



大塚雄介 (おおつかゆうすけ)
東京都三鷹市出身
浄土真宗本願寺派 慈船寺 僧侶
NPO法人終活サポートセンター

Dementia Friendly Japan Summit 2019

1 日目-G102 教室 (15:00~16:30)

【演劇で考える、これからの共生社会】

<内容>

これからの人生100年時代においては、認知症に限らず、様々な健康に関する課題について、医療や介護の領域を越えて、企業や大学やNPOなど様々なセクターが共に考えていく必要があります。しかし、異なるセクターの人と文化の違いを越えて情報・理念を共有し、合意を形成していくのは、それほど簡単なことではありません。

ここで役に立つのが「演劇」の手法です。とある事例について、複数の参加者で実際に演じてみることで、具体的にイメージしながらケースを共有することができますし、共有されたケースについて参加者同士で意見を出し合うことが可能となります。

本セッションでは、実際に演劇の手法を皆さんに体験していただきながら、これからの共生社会における複数セクターの協働というテーマについて考えていきます。

<登壇者>



蓮行 (れんぎょう)
大阪大学大学院人間科学研究科
劇団衛星代表、劇作家、演出家、俳優
京都を拠点に公演活動を行う。同時に、
演劇のポテンシャルを活かしたワーク
ショップ事業を数多く手がけている。



蓮行の著書2冊



岡崎 研太郎 (おかざき けんたろう)
名古屋大学大学院医学系研究科
医療現場におけるコミュニケーション
に興味を持つ。診療現場での医療者と患
者のすれ違いを演劇として上演し、参加
者と考える「糖尿病劇場」を展開中。



糖尿病劇場の様子

Dementia Friendly Japan Summit 2019

1 日目-G104 教室 (17:00~18:30)

【ケアとテクノロジー・「心のケア」を具体化する ～認知症グループホームの葛藤が教えてくれること～】

<内容>

認知症を地域で支えようという議論をする時、あなたは認知症グループホームの存在（実際）をどのように語りますか？ “教科書的解釈”ではなく“現場のリアルな視点”を知ることと、見えて来る認知症ケアの論点があります。

本セッションでは、介護職員歴9年でケアマネージャーとしても活躍中の20代現役スタッフに登壇いただき、独特なコミュニケーションロボット『テレノイド™』を使った最新の認知症ケア・アプローチを体験型ワークショップ形式でご紹介します。

【前半セッション：グループホームの葛藤】

ジブンゴトで考える、なりきりグループワーク

【後半セッション：『心のケア』を具体化する】

“心のケア”とは何か？ 1人を深く知る ～テレノイドケア研修成果報告～、テレノイド体験

<登壇者>



コーディネーター 宮崎 詩子
1976年東京生まれ
株式会社テレノイドケア代表取締役
15年間の認知症家族介護経験者
テレノイドによる高齢者の個人面談を提唱、
“心のケア”モデル確立に取り組む。



プレゼンター 山口 由季
1990年大阪生まれ
社会福祉法人隆生福祉会ゆめ長居公園グ
ループホーム・チーフ
ケアマネージャー兼介護職員。
テレノイドケアプロジェクトメンバー。

Telenoid+
×
社会福祉法人 隆生福祉会

テレノイドは石黒浩大阪大学基礎工学部教授が開発した対話のための遠隔操作型ロボット。認知症ケアへの応用が始まっている。

うなずく
かしげる
きよきよ
ハグ

マイク
カメラ
スピーカー
スピーカー
柔らかい
50cm
2.7kg

Hello! Please hug me!!
Hello!
Please hug me!!

internet

【認知症とはたらくこと ～妄想と現実を解き明かす～】

<内容>

「認知症になったらはたらく？」 いえいえ、そんなことはございません。
最近、認知症の当事者からの声がどんどん挙っており、「したいことはたくさんある」「できることもたくさんある」という声が世間にも少しずつ届きだしているように感じます。その中には「いつまでもはたらいたい」という声も聞こえてきます。“はたらく=賃金を得る”ではなく、はたらくことに対しては多様な意味があり、働き方改革や1億人総活躍社会などと言われている世の中で、もしかしたら私たち自身にとっての“はたらく”ことの意味が見えてくるかもしれません。

本セッションでは、実際に京都で取り組んでいる2つの事例を紹介。その後、認知症の人、高齢の人、もしくはすべての人に対する新しい「はたらく」を創造し、現実社会にどう誕生させるのかをワークします。

<登壇者>



河本歩美

高齢者福祉施設 西院 所
長 (セッションオーナー)
京都で生まれ京都で育っ
た京女。いろいろな取り組
みに手を出し過ぎて、何が
本業なのか見失い中。「走
り出したら、橋げたが外れ
ても走り続ける」がモット
ー。



寺川麻依子

出張カフェ 空-クウ-
代表/調理師
「ありがとう」の言葉や
「誰かの役に立つこと」
が、その人の「自信」を引
き出す！と信じ、出張カ
フェを通してだれもが活
躍できる機会をつくって
います。



田端重樹

京都市西院老人デイサ
ービスセンター/作業
療法士
高齢者の「意味のある作
業」を探求し、デイサー
ビスでご利用者が「はた
らく」ことを実践中。



小川敬之

京都橘大学健康科学
部作業療法学科 教授
作業療法士
色々なことに興味を
もって首を突っ込む
男。京都在住1年と半
年。福岡県出身

Dementia Friendly Japan Summit 2019

2 日目-G102 教室 (9:20~10:50)

【高齢者とペット】



<内容>

近年、独居高齢者の増加や生活困窮・貧困、認知症の人など、高齢者とペットについても問題となっています。老後の生活が複合的に背景をもつ中で、医療・介護と直結しない新たな高齢者問題の1つとなってきています。つまり、現場の実態と制度が見合っていない状況がすでに起きており、制度の中でエアポケットの状態にもなっています。

こうした「高齢者とペット」問題を、誰が?対処し、どのように?解決していくのか。実際に起こった事例を通して一緒に考えていきます。

本セッションでは、実際の事例に関わった支援者と、介護保険や認知症を取材してきた社会保障担当の記者の視点から、この問題について課題提起していただきます。

そしてその当事者であったテディと言う犬も登場?!します。一緒に「高齢者とペット」の問題について、参加者の皆さんとディスカッション形式で対話したいと思います。

<登壇者>

朝日新聞東京本社文化くらし報道部 清川卓史
岩倉地域包括支援センター 松本恵生
テディ、テディの飼い主 (清水真弓)



<p>朝日新聞編集委員 (社会保障担当)。介護保険や認知症、貧困問題に関する取材を続けています。今年1月の朝日新聞に「介護保険 ペットに悩む」という記事を書きました。</p>	<p>主任介護支援専門員。 佛教大学社会福祉学科卒業。 医療機関にて地域連携室・MSWを経て2008年より現職。 2018年NHK厚生文化事業団認知症にやさしいまち受賞。</p>	<p>ティーカップトイプードル 14歳、オス、好物はささみ 京都の岩倉で生まれ育ち、独り暮らしのおじいさんに飼われていました。今は、清水家で暮らしています。</p>	<p>テディの現在の飼い主 (2018.12~) 京都市内で生まれ育ち、理学療法士として、広くペットも含めた?地域リハビリテーションに携わっています。</p>
---	---	--	---

Dementia Friendly Japan Summit 2019

2 日目-G104 教室 (9:20~10:50)

【触法って何? ~病気なのに、病気だから犯罪になってしまうとき~】

認知症になっても笑顔で生きることができる、でもそれは本当に周りの理解と病気を自分事として受け取る気持ちがあってこそ成り立つもの。認知症は進行とともに、様々な問題もでてきます。ご近所トラブル、軽犯罪、裁判、、、。「認知症」は犯罪の免罪符? 本当に認知症の症状で起こしていること? 被害者への補償は?

警察、弁護士、検察など司法が絡むとこれまで意気込んでいた福祉マインドもどこかに引っ込んでしまいます。そこに切り込んでこそ、まちづくりが進むのではないか、医療、福祉、司法、できることはまだまだあります。実際に軽犯罪を繰り返した人の家族も登壇し、認知症にまつわる触法問題と、触法問題も含めた「ささえる仕組み」を作った兵庫県社協のメンバー中心に、徹底的にこの問題の解決の糸口を探ります。

<登壇者>



山川みやえ (セッションオーナー)

大阪大学大学院医学系研究科/ 公益財団法人浅香山病院 看護学博士
自分では全く思いつかないことも周りの勢いや問題意識に絆されてともにやっていく他力本願な研究者。ひょうご若年性認知症支援センターのアドバイザー



清水美代子

高砂市「つなぐ手と手~広げようやさしいまちづくり~の会」
兵庫県の保健所等保健師を経て、若年性認知症の本人と家族支援を起点に、全ての人
が安心して暮らせるまちづくりを目指した活動を始める。絶滅危惧種の本気の保健師



杉田健治

兵庫県社会福祉協議会福祉支援部長
見た目はどこかの組の 893 みたいだが、人々の幸せを祈っている。若年性認知症支援
をはじめ、生活困窮者支援や権利擁護など幅広く担当。
特技: 司会 (よく噛む)



中牟田なおみ

兵庫県社会福祉協議会 ひょうご若年性認知症支援センター相談員
地域包括支援センターでの勤務などを経て、現職。お酒を飲んでも飲まなくても涙脆
く、相談で関わる人たちの人生などにも思いをはせる。その個別ケースへの強い気持
ちを仕組みづくりへのモチベーションに変えるべく日々奮闘中。



山田真紀子

大阪府地域生活定着支援センター所長、日本精神保健福祉士協会理事としても「認知
症疾患センタープロジェクト」を担当。認知症疾患医療センターや認知症施策が刑務
所内や被疑者被告人の認知症の方にまで広がることを期待している。



Kさん (家族介護者)

母が、前頭側頭葉変性疾患という診断を受け、自宅療養中。その間も万引きをくりか
えし、起訴され、服役経験もある。本当にサポートがなく、気が休まることが無い。「い
ろいろ疲れました。」というのが本音。

Dementia Friendly Japan Summit 2019

2日目-G105 教室 (11:10~12:40)

【ケアの本質とテクノロジー】

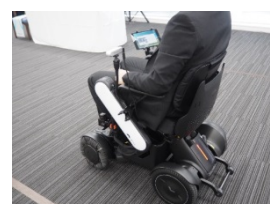
<内容>

昨今の日本における大きな社会問題の一つとして、労働現場の人手不足が叫ばれています。介護現場においても人手不足は深刻な問題です。介護者の負荷軽減や業務効率化をする上で、テクノロジーへの期待も大きく、さまざまな製品が市場にも出始めました。しかし、人間そのものを扱う現場で、いったい何ができるのかを見つめなおす必要も出てきています。本セッションでは、「ケアの本質とは何か」に焦点を当てながら、介護をする上で譲れない考え方やそれを踏まえたテクノロジーの活用について、ワークショップ形式で考えてみたいと思います。

<登壇者>



横江 美那子
SOMPO ケア株式会社
・看護師、保健師
・東京医療保健大学大学院
医療保健情報学領域



片岡 眞一郎
Future Care Lab in Japan 所長
・ロボット介護機器開発・標準化事業委員
・神奈川介護現場革新会議委員

28歳で介護の世界に入り、介護付ホームで介護職を経験後、採用・教育の仕事に携わる。介護職員の人材の確保が喫緊の課題と感じ、2018年7月に介護職の業務負荷軽減・介護現場の生産性向上を目的に、介護・福祉の関わるテクノロジーの開発・研究センター「Future Care Lab in Japan」をSOMPOグループ内で立ち上げる。

Dementia Friendly Japan Summit 2019

2 日目-G004 教室 (11:10~12:40)

【Michiyo & オイワ~本人の言葉から考え続けるということ~】

1998年、オーストラリアのクリスティーン・ブライデン（当時はクリスティーン・ボーデン。その後の結婚でクリスティーン・ブライデンに）は著書『Who will I be when I die?』のなかで、「これまで私が見てきた資料は、すべてアルツハイマー病の介護者のために書かれ、出版されている。残念なことに、私たち、現実にアルツハイマー病を病む者が忘れられているように思えてならない（2003年：『私は誰になっていくの?』1998年著書の邦訳）」と記しています。あれから21年。彼女に続き、いま、世界で、そして日本でも多くの認知症の当事者が自身の言葉で語り、「わたし」にしか分からない日常の些細な困りごとや心の葛藤だけでなく、希望や夢のメッセージも「わたしらしさ」という彩をまとめて私たちに届けてくれています。

“本人の言葉”はそれぞれの状況を背景に、元々のパーソナリティや人生観というフィルターをとおして発せられるだけに、その一つひとつには多様な価値が秘められています。

「聴けてよかった」に終わらず、“当事者の言葉”から普遍性を探り、ケアや相談支援の“引き出し”をどのように増やしていくのか。本セッションでは、認知症と診断された本人の歌、支援者との鼎談のあと、会場全体でのワークをとおして「考え続けること」の重要性について考えていきます。

<登壇者>

Michiyo&オイワ（海老澤三千世 岩井雅美）



愛と日常を紡いだ Michiyo（認知症当事者）の歌詞に、洋楽・邦楽のおいしいトコロを駆使してオイワが曲をつける。そんなシンプルにひっそりと咲いているアコースティックデュオです。最近ではオリジナル曲だけでなく、福祉系イベントで昭和歌謡なども演奏。京都のライブハウスでの出演もこれまでどおり続けています。

北野太朗



医療法人かどさか内科クリニック・ケアプランセンター頼政道管理者。主任介護支援専門員。認知症の人とその家族の方への支援について、基本的姿勢を故・小澤勲（おざわいさお）医師に師事。第60回カンヌ国際映画祭グランプリ受賞作「殯の森（もがりのもり／河瀬直美（かわせなおみ）監督）」の監修も担う。

【アクションガイドブックの作り方

～自分たちで、自分たちのためのケアパスをつくる一歩のために～】

<内容>

認知症の診断後、気持ちが落ち込んでしまう空白の期間があることが言われています。川崎市は、認知症の診断を受けた方が前向きな気持ちで次の一歩をはじめられるようにと、これまでとは異なる形の「認知症アクションガイドブック」(*1)を作成しました。

このセッションでは、自分たちの街のための自分たちのアクションガイドブックの作り方について、簡単なワークショップ形式で考えます。どの街でも、小さなことから始められるアクションのきっかけになるかと思えます。

まず、川崎市の「認知症アクションガイドブック」のことを短く共有し、それから『認知症にやさしいバス』を考えたときに使った方法を応用したセッションを行います。

※なお、本セッションは日本財団の助成を受けて実施しています。

<登壇者>



岡田誠
DFJI

DFJI 共同代表理事。セクターを越えてのプロジェクトを推進している。「旅のこぼれ」(共同編者)。富士通株式会社。国際大学GLOCOM 客員研究員、慶應 SFC 研究所 上席所員。



黒川容輔
臨床福祉専門学校

言語聴覚士。世の中の情報がすべての人にわかりやすくなることを目指し活動している。臨床福祉専門学校言語聴覚療法学科副学科長。



川崎市『認知症アクションガイドブック』

(*1) <http://www.city.kawasaki.jp/350/page/0000087024.html>

Dementia Friendly Japan Summit 2019

2日目-G102 教室 (13:30~15:00)

【自然災害をとともに考える】

<内容>

近年、南海トラフ巨大地震がおこる確率が高まったことが発表され、全国では地震や台風など自然災害が頻発し、人的被害も多く出ています。過去の自然災害の教訓を活かそうとさまざまな取り組みが始まっています。人々の防災意識の高まりは、過去の自然災害の教訓を活かし、さまざまな取り組みが始まっています。地震発生時や避難準備が発令されたと同時にどのように行動すればよいのでしょうか。

本セッションでは、「自然災害から命を守ること」に焦点をあて、どのように日頃から備えておくのかについて、ワークショップ形式で対話したいと思います。

<登壇者>

浦野 典子

En cheri Lab.

エステティシャン、防災士

2010年より誰もがいつまでもこころ美しく暮らせる社会を目指し活動中。

2013年より「認知症にやさしいまちづくり」に取り組む。



【附記】

当日、開場で災害シミュレーションを流します。不安症や災害によるトラウマ、PTSDのある方には、何らかの心理的影響がないとは言えません。気になる方は、シミュレーション動画の共有後の13:45頃からご参加ください。

Dementia Friendly Japan Summit 2019

2日目-G004 教室 (13:30~15:00)

【AI と認知症の人と介護】

<内容>

Care とは介護や世話と一般的に言われていますが、本当に？

注意してその時その瞬間を凝視すると、「こんな思いが働いたんだなあ」「この人なりの行動様式なんだなあ」など様々な、対象者の人の心の動きやそれに伴う体の動きが見えてくることがあります。

AI のプロと動作を凝視するプロが認知症の人の動作の困りごとや介護としてかかわる際の??を「もしかしたら・・・こうした理由かもー」と雑談形式で語る場にしたいと思います。ぜひ参加者の方々とも意見交換ができればと思います！

皆様のご参加をおまちしていまーす！！

<登壇者>



桐山 伸也
静岡大学
AI 研究歴 20 年
人工知能学会「コモ
ンセンス知識と情
動研究会」主査



小川 敬之
京都橘大学
作業療法士
臨床経験 15 年、大
学教員 17 年



【まなびあいツールのご紹介】

認知症は、医学的にいえば、脳機能に少しずつ問題を持つ状態を示していますが、ここまですべての研究者が話をしてきたように、認知症は「社会の病気」になってしまいました。

認知症は不思議な病気です。誰でも知っているけれど、ほとんどの人がきちんとした説明ができません。だからこそ、マニュアルでもなく、ノウハウでもなく、きちんと個々の生活を継続的に考えていく学習が認知症の本人、家族、友人、専門職、みんなに必要です。今回認知症を長く付き合うための学習ツールを作りました。まだ完成していないので、どんな活用ができるか、ぜひ皆さんで考えたいと思います。

<登壇者>



山川みやえ
(セッションオーナー)

大阪大学大学院医学系研究科/ 公益財団法人浅香山病院 博士(看護学)
認知症とともに生きるには、社会全体の「学習」しかありえないという信念を持っている。「おまえなんか俺のことがわかるか」「偽善者」と認知症の本人、家族から言われ、第三者としてできることをやろうと思っておす。自分が会える患者、家族だけ見ても根本的な解決には至らない。なんとか会えない人にアプローチできないかと思い、様々な取り組みを手掛ける。編著に「認知症：本人と家族の生活基盤を固める多職種連携」(日本看護協会出版会)、「ほんとうのトコロ認知症って何? (大阪大学出版会)がある。



周藤俊治
(すとぅ しゅんじ)
奈良県立医科大学、地域医療学講座/大阪大学招へい教員
博士(保健学)、診療情報管理士、放射線技師
医療情報学、システムエンジニア、プログラマー、パソコンとかデータに詳しい人、もはや何が専門か全く分からないほど、数々の人のよろず相談に乗っている。
院内感染のアウトブレイクデータベースの作成やウェブコンテンツも手がけるオールラウンダー。
認知症に関しては、ICタグを活用した病棟でのモニタリングシステムなどのインターフェースの開発、医療介護ビッグデータの分析などさまざまな活動をしている。

紹介するまなびあいツール



Dementia Friendly Japan Summit 2019

2 日目-G105 教室 (15:20~16:50)

【学ぶ／働く／遊ぶ。

本気で遊ぶ体験と思いを大切にしているイベントの作り方】

<内容>

皆さん、サーフィンに興味ありますか？何かのきっかけで若い頃熱中していたスポーツを止めてしまい、随分と楽しんでいないなあという経験や思いはありませんか？

『サーフィンしたいな』、ちょっとしたつぶやきを大切に育てたコミュニティが、東西にありました。鎌倉と大阪府堺でそれぞれで発足したサーフィンプロジェクト。今年、その2つのコミュニティが三重に集まり、総勢 132 名の大集団となって、認知症がある、ない関わらず、『ごちゃませ』の笑顔がビーチに溢れました。

本セッションでは、それぞれの地域が、どんな思いで、そしてどんなプロセスを経て、ここに集まることができたか、参加者で共有し、対話形式で「本気で遊ぶ」ための条件について、導き出したいと思います。

<登壇者>

田中 克明



コクヨ株式会社
DFJI

2012 年 DFJI 発足時
より参加

・認知症にやさしい図
書館PJ

・OT×企業ワークシ
ョップを進めている

下藪 誠



社会福祉法人朋和会
所長

堺市南区の若年性認知
症の人と家族と地域の
支え合い会「希望の灯
り」代表

認知症本人の思いを
大切に、様々な活動
を進めている



Dementia Friendly Japan Summit 2019

2 日目-G102 教室 (15:20~16:50)

【外出をあきらめない、あんしんして出かけられる場所づくり】

<内容>

むかし京大生の食堂としてにぎわっていた、喫茶店「まこと」。このおかみさんは病気で食堂を閉店していましたが、「認知症の人や家族が集う場」として再開を決意されました。その経緯と1年たった今思う事、その利用者である当事者とその介護者のご夫婦の話を、対話をしながらそれぞれの思いをお聞きし、カフェや「居場所」の役割について考えます。また、様々な趣向を凝らしたカフェ(駅カフェ・ブライダルカフェ・夜のバーカフェ)も紹介してもらい、既存の場所で実施しているその狙いを聞きます。そして、参加者の方々も一緒に、カフェの役割や「居場所」のあり方、そもそも「出かける」意味を考え直すセッションとします。

参加者の皆さんと意見交換しながら、認知症カフェに対するモヤモヤした思い…一見良さそうなのに何となく違和感…心に今まで秘めていた思いを打ち明けたいと思います。



<登壇者>

オレンジカフェまこと 廣安信子、利用者 鈴鹿ご夫婦(正和さん、久美さん)

岩倉地域包括支援センター 松本恵生

(セッションオーナー)田中克博、清水真弓



廣安信子 ・ 鈴鹿ご夫妻

オレンジカフェまことを、2018年9月から始めた。

鈴鹿ご夫婦は、その利用者で近所に住んでおられます。



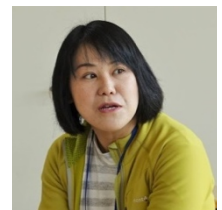
松本恵生

主任介護支援専門員。医療機関にて地域連携室・MSWを経て2008年より現職。



田中克博

地元の精華町で、福祉専門職だけでなく、一般住民を主なメンバーとする「精華町キャラバン・メイト連絡会」の代表。現、大阪府都市整備部安威川ダム建設事務所次長



清水真弓

理学療法士。京都市域地域リハビリテーション支援センターのコーディネーター。



ランチオン・セッション『Zoomカフェ体験』（場所：G102）

昼食のタイミングで、ランチオン・セッション『Zoomカフェ体験』を実施します。お昼を食べながらで構いません。気軽に参加してみてください。必要なものは、お昼のお弁当とスマホと、そしてちょっとの好奇心です。

Zoomは遠隔にいる人と気軽に対面で話ができる仕掛けです。もちろんこれまでもそのようなものはたくさんありました。しかし、やっとそれを気軽に使って貰えるタイミングがきたと言えます。実際、DFJIではその練習会を毎週火曜日20時から開催しています。練習会の数は300回を越えました。参加している人たちも京都・東京・千葉・大阪・宮城・広島・岡山・兵庫・・・さまざまです。

ぜひ、お昼の時間、この機会に『ああ、こんなことができそうだ』ということを経験してみてください。そして福祉の新しい可能性を感じてみてください。

開催予定時間：1日目（土曜日） 11:50～12:50
：2日目（日曜日） 12:40～13:30



Supported by



THE NIPPON
FOUNDATION